

## 令和6年度第1回福島県総合教育会議 議事録（概要）

1 日 時	令和6年8月9日（金）10時30分～12時00分								
2 場 所	杉妻会館 3階 「百合」								
3 出席者	<p>知 事 内堀 雅雄            教育庁 大沼 博文            教育委員 大村 雅恵 吉津 健三 高橋 理里子 成澤 勝蔵 正木 好男  <span style="float: right;">＜五十音順に掲載＞</span></p> <p>事例発表者及び引率者</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">武蔵野大学</td> <td>近藤 功歩</td> </tr> <tr> <td>白河旭高等学校</td> <td>上原 菜緒</td> </tr> <tr> <td>白河高等学校</td> <td>阿部 三和子</td> </tr> <tr> <td>一般社団法人未来の準備室（EMANON代表）</td> <td>青砥 和希</td> </tr> </table>	武蔵野大学	近藤 功歩	白河旭高等学校	上原 菜緒	白河高等学校	阿部 三和子	一般社団法人未来の準備室（EMANON代表）	青砥 和希
武蔵野大学	近藤 功歩								
白河旭高等学校	上原 菜緒								
白河高等学校	阿部 三和子								
一般社団法人未来の準備室（EMANON代表）	青砥 和希								
4 議事内容及び経過									
(1) 開会	事務局（政策調査課長）								
(2) 議題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">＜ 議題1 震災の記憶と教訓の継承について ＞</p> </div> <p><b>【知事】</b></p> <p>議題1、「震災の記憶と教訓の継承について」、生涯学習課及び社会教育課からそれぞれ説明をお願いします。</p> <p>次に、昨年度、「ふくしまの未来へつなぐ体験応援事業」に参加された武蔵野大学の近藤功歩さん、白河旭高校の上原菜緒さん、白河高校の阿部三和子さんから、体験活動での取組事例について発表していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>－ 生涯学習課長から資料1に基づき説明 －</li> <li>－ 社会教育課長から資料2に基づき説明 －</li> <li>－ 大学生・高校生から資料3について発表 －</li> </ul> <p>以上の説明及び発表の後、以下のとおり意見交換</p> <p><b>【知事】</b></p> <p>近藤さん、上原さん、阿部さん、ありがとう。</p> <p>緊張もあったと思うが、しっかりと声が出ていて、自分の思いを自分の表現で堂々と発表してくれた姿は、とてもすばらしかった。</p> <p>この発表は、地域活動を行う場であるEMANON（コミュニティカフェ）</p>								

での経験が土台になっていると思う。改めて、3人の発表について、青砥さんからの感想をお願いします。

**【青砥さん】**

3人は、学年も学校も違い、EMANONに集まってくれたことだけが最初の共通点だが、今回の経験を経て、震災のことや、台湾の方々との交流が3人共通の思い出になったことを、とてもうれしく思う。

震災に関する交流活動は、教育活動であると同時に、自分たちのルーツについて知ることだと思う。

震災についての情報や資料へアクセスしやすい状況になってきている。改めて、自分やクラスメイトにとって震災はどんな意味があったのか、同世代同士で語り合うという共通の体験をしてほしい。そうして、地域の方や、浜通りに住んでいる方、浜通りから避難されている方と語り合うことではじめて、相手のルーツについて知ることができる。自分の住む町についても考えることができる。

こうしたことは、共通の行動体験があってはじめてできることであり、今日の3名の発表にも結実していたと思う。

**【知事】**

ありがとう。

それでは、意見交換に移りたいと思う。

**【成澤委員】**

事例発表ありがとう。

台湾の学生と交流された中で、震災に対する正しい情報は伝わっていたのか、自分が勉強したことと異なった認識を持っていたのか、伺いたい。

**【阿部さん】**

私自身、処理水については、専門的な知識が余りなく、台湾の方に正しく伝えられるか不安があった。また、日本語ではない言葉で伝えることは大変だったが、私が特に伝えたいと思った情報は、しっかり伝えられたと思う。

**【青砥さん】**

台湾の方は、福島や廃炉、処理水のことを全く知らない、または誤解していたなど、どんな印象を受けたか。

**【阿部さん】**

話した印象としては、廃炉や処理水のことを知らない感じだったので、分か

りやすく説明して、理解していただけたと思う。

#### 【成澤委員】

ありがとう。

台湾と日本の学生がお互いに学び伝えていくことに意味があると感じた。大変素晴らしい、貴重な経験をされたと思う。

今の児童、生徒は、震災時は生まれていないか、幼くて記憶がない方がほとんどになってきている。これからも、正しい情報を学び、伝えていくことが必要であり、大事なことだと感じている。

1923年9月1日の関東大震災の教訓として、今でも地域ごとに防災訓練が行われている。本日は、長崎に原爆が投下され79年目になる。私も学校でこの原爆を学んだが、小学校の図書室にあった漫画やテレビアニメから強烈な印象を受け、戦争は絶対にしてはいけないと、子どもながらに思った記憶がある。

東日本大震災についても、漫画やアニメを通して子どもたちに教え、また、海外の方にも伝えられるのではないかと感じた。

最後に、資料2の「本事業を経験した先輩方の姿から」にある、個々人の思いを、皆さんに持っていただいて、日本や世界に広まれば、素晴らしいと思う。これからも継続をお願いしたい。

#### 【吉津委員】

皆さん、発表ありがとう。

皆さんの発表を聞いて、なんとなく理解することと現場でリアリティを持って理解することは、全然性質が違う学習だと気付かれたことは、素晴らしい経験だと思う。

近藤さんは白河市葉ノ木平での活動を通して、震災の大きな被害が同じ市内でも起きていたことを知ることができたと話され、阿部さんは不確かな知識は偏見や差別を助長することに気付かれた。本当に良い学習をされたと思う。上原さんは台湾地震の悲惨さを具体的に想像することができ、実際に体験することがすごく重要だと話された。阿部さんもビデオや本だけの学習ではなく、リアルを体験することで、知らなかった人も更に詳しく知りたいと思うと話されていた。

皆さんの発表を聞き、教科書やビデオだけでなく、リアルの大切さを教育委員としても重視していかななくてはならないと思った。

今後、50年後、100年後にも、3.11は新聞のコラムに載るはずであり、我々が亡くなった後も歴史の中で振り返られていく。渦中にある我々が、これからも伝承し引き継いでいかななくてはという思いを強くした。

皆さんから学ぶところが多かった。ありがとう。

**【高橋委員】**

皆さんありがとう。

皆さんの発表から、すばらしい経験をされたと感じることができた。

私も当時、県の事業で広域避難所や、仮設住宅の支援に入るカウンセラーとして活動していた。皆さんが今、一生懸命にそうしたことを我が事として学んでいることが、大変ありがたいと思う。

阿部さんが話された、誤解が誤解を招く、正しくない情報が様々な憶測を生んでしまうということは何にでも通じることである。

A L P S 処理水や放射能など、不安や分からないことがあると、憶測だけで考えてしまい、正しい情報が何か分からず、はっきりしない不安感がいまだ続いている。こうした不安が風評被害を生み出し、相互理解を難しくしていると思う。

それを皆さんが、我が事として課題を見つけ、正しい事実を探し、台湾という異国の地で伝えてくれたことを本当にうれしく思った。

今後、この経験を自分の中でどう活用していきたいか、一言ずつ教えていただきたい。

**【近藤さん】**

台湾に行って感じたのは言語の壁は大きくないということ。

初めての海外で、日本語しか話せない中で、台湾の方とコミュニケーションを取れるのか不安があったが、簡単な単語や、おいしいもの、私が好きなアニメの話などを通じてコミュニケーションを取ることができた。

今後、留学や様々な経験をしたいと考えている。アニメやおいしいものといった、お互いが同じ認識を持ち共有できるものを通して、コミュニケーションを取っていききたいと思う。

**【阿部さん】**

台湾で日本と文化の違いがあることを感じた。台湾の文化も興味深くおもしろいものも多くある中、日本との共通点も多く見つけることができたことがうれしかった。今回、こうしたことを自分の中に取り込むことができたので、国内外に関係なく、自分が探究活動をする上で大事にしたいと思う。

**【上原さん】**

これからの若い世代は震災のことを知らないなので、将来、自分に子どもができれば、東日本大震災について話をしたい。

私自身も知らないことや覚えていないことがあるので、施設等で話を聞くなどして知識を身に付けたい。

### 【高橋委員】

ありがとう。

皆さんそれぞれの、将来への思いを聞けてうれしい。言葉は壁ではなく、思い。相手に伝えたい、自分がどう感じているか、思いの部分で人と人は分かり合える。

是非、皆さんのその思い、感情を大事にして頑張っていたきたい。

### 【正木委員】

発表ありがとう。

今回、貴重な経験をされたので、是非、周りの方にも伝えていただき、我々も側面から協力させていただきたい。

震災の記憶と教訓の継承について、複合災害の経験を風化させずに次の世代へつなげていくのは非常に難しいが、地域の発展や防災意識の向上のためには伝えていくことが不可欠だと思う。

具体的には、教育カリキュラムに震災関連の内容を組み込んで複合災害の実態と影響を学ぶことが必要であり、そうした教育の中で、災害の恐ろしさや、復興の大切さを理解し、環境や再生可能エネルギーの重要性にも学びを進めることができる。また、地域の復興とともに、地球環境の問題解決に寄与する人材の育成にもつなげることができる。

さらには、防災訓練の強化や、地域社会との連携を図ることで、実践的なスキルも身に付くと同時に、社会の一員としての役割を認識することにもつながり、これも教育だと思う。

今もやっているが、被災地の現状を直接学ぶ機会を提供することで、児童生徒が、現実的な視点から防災や減災の重要性を理解し、未来に備える力を養うことができると思う。さらに、発表にもあったが、防災のワークショップや被災者との会話などを通じて、子どもたちは、震災の現実を理解し、防災意識を高めることができる。

最近では、能登半島地震や日本各地で起きている水害など、災害の記憶と継承の問題は、福島県だけでなく日本全体の防災文化の向上にもつながる。教育委員会では教育長が中心になって、更に推進していくことが重要だと思う。

### 【大村委員】

発表ありがとう。

皆さんが自主的な取組として、良い学び、良い体験をされたと思うので、今後にかして活動を続けていただければ大変うれしい。

先日、「人と防災未来センター」という阪神・淡路大震災の施設を視察した。

現在、兵庫県では、命の尊さを考え、人間としてどう生きていくかという点

と、自然災害に対する防災力をどう育成するかという二点に取り組んでいる。その中で、先生方は災害発生時には現場に向かい、教育現場の復興へのサポート活動を25年間継続して行っている。また、防災教育も学校でしっかり実施されているとの話を聞き、継続することの大切さを考えさせられた。

東日本大震災の記憶と教訓の継承を継続していく時、廃炉や処理水の問題について、今の児童、生徒にしっかりと考えていただく必要がある。次から次へと課題が出てくる中で、長期間、関わらなければならない子どもたちに、廃炉や処理水についてのテーマを常に提供するプログラムを考える必要があると感じた。

そこで加えていただきたいのが、今、抱えている廃炉や処理水というテーマについての学びのタイミングをつくり、先生と児童と一緒に検討したり、現地を見て地域の方の話を聞いたり、そうしたテーマに継続的に取り組んでいただくことで、「福島ならではの」の教育につながると思う。

#### 【知事】

続いて、教育長にお願いします。

#### 【教育長】

近藤さん、阿部さん、上原さん、ありがとう。

震災の記憶と教訓の継承について、県教育委員会としては二つの意味があると思う。一つは、災害から命を守ることを学んでいく。もう一つは、震災と原発事故、特に原発事故の風評と風化をどう克服していくか、この二つの観点で、震災の記憶と教訓をいかに継承していくかが非常に問われている。

今日、皆さんから話があった中で、私が重い課題として受け止めたのは、単に資料を見るだけではない学びを学校で取り組むことである。現在、こうした取組を行ってはいるものの、子どもたちが震災を知らない世代となる中で、新たなフェーズになってきている。

廃炉や処理水の問題を中心に、子どもたちにしっかりとリアルな状況を見ていただき、正解は無いが学び続けること、問い続けること、その中で友達や県外、あるいは外国の人たちと対話することの大切さを、プログラムの中にしっかり埋め込み、取り組んでいきたいと思う。

#### 【知事】

近藤さん、阿部さん、上原さんのプレゼン、その後の受け答えについても自分の思いを自分の言葉で相手に伝えていて、そのメッセージがしっかり伝わった。また、台湾の皆さんにも共感が生まれたのではないかと思う。

青砥さんが頑張ってくれているEMANONが、若者を育てる大事なベースキャンプになってくれていることに、心から敬意を表す。

本日のプレゼンと質疑応答を伺って、三つ大事なことがあると考える。

一つ目が、大使、アンバサダー。皆さんは正に福島大使、白河大使である。今回、震災や復興について学び、海外の方に伝えるという大使の役割を立派に果たしていただいた。この大使であることが、福島で生まれ育った子どもたちにとって、すごく大事であり、大人たちや現役世代も含め、自分なりに理解した福島をいろいろな方に発信し理解を得ようとする、そういう思いが大事である。

二つ目が、共感である。一方的に自分の思いを伝えても、相手が関心を持てなかったり、反発されたら大使の役割を果たせていない。相手に響き、共感してもらうことが大使の役割であり、共感していただける伝え方が大事である。

三つ目が、決め付けないこと。自分が学んできたこと、経験したことをいろいろ伝えても、相手の受け止め方は全然違う。処理水の問題も正解があるわけではなく、ジレンマのある問題が世の中にはたくさんあって、マークシート試験のように正解を選べないものがある。

そのため、相手の考え方も尊重しながら自分の意見を聞いてもらう、決め付けないスタンスというものが、高校生、大学生を経て社会人になると余計に大事になる。

皆さんは、「大使」「共感」「決め付けない」を今回、学ばれたので、この思いを大事にしながら大きく成長してほしい。

すばらしいプレゼン、ありがとう。

## < 議題2 ふくしまっ子を支える切れ目のない食育推進について >

### 【知事】

議題2、「ふくしまっ子を支える切れ目のない食育推進について」、健康づくり推進課、健康教育課及び農産物流通課からそれぞれ説明をお願いします。

- － 健康づくり推進課長から資料4に基づき説明－
- － 健康教育課長から資料5に基づき説明－
- － 農産物流通課長から資料6に基づき説明－

以上の説明及後、以下のとおり意見交換

### 【知事】

それでは、意見交換に移りたいと思う。

### 【正木委員】

説明ありがとう。

切れ目のない、ふくしまっ子の食育の推進は非常に重要なテーマだと思う。食事について、唯一成功しているのは学校給食であり、一日の中で最もバランスの良い食事だと思う。例えば、地元の食材を利用した食事の提供を積み重ね

ることで、子どもたちの地産地消の意識醸成や、食環境を自分で整えていくことにもつながると思う。

福島県の健康指標は非常に残念な結果にあり、一朝一夕には改善できない。食事の基本は、家庭にあると思うので、県や各市町村の広報誌で福島県の健康実態や減塩メニューの提供などを継続的に周知し、家庭での意識を上げていかないと健康の維持・管理は難しいと思う。是非、広報誌の積極的な活用をお願いしたい。

**【知事】**

ふくしまゆめだよりや県政の広報番組、テレビも含めて、正木委員の思いを形にしたい。

**【高橋委員】**

説明ありがとう。

子どもたちには、良いカリキュラムで、良い教育をしていただいているが、残念ながら大人の意識が低い。

子どもたちの食環境は、親の食生活に委ねられている。家庭での食生活の偏りは、親の影響が非常に大きいので、子どもたちに良い教育を施しても、食生活の重要性が親に伝わらないと残念な結果になってしまう。PTA等のいろいろな活動を通して、親に対するメッセージとして、子どもたちの将来のために家庭で意識してもらえるよう強く伝えていただきたい。

**【知事】**

同感である。子どもよりも大人のほうが難しいので模索していきたい。

**【大村委員】**

生活習慣に関する健康指標について、福島県は非常に残念な結果だが、自分で健康課題に気付き計画的に行動していくためには、幼少期から意識を育てていかないと難しい。今の世代の大人は、そうした体験をしていないので、是非、子どもたちに健康意識や健康マネジメント能力を身に付けさせるという視点で取り組んでいただきたい。

先日、「もうじき食べられる僕」という絵本を読んだ。牛の自分が食べられてしまう話で、「自分を食べることで、命の大切さを考えてもらえるとありがたい」というのが最後のメッセージだった。命や生き物を頂くことへの意識を高めるために、絵本もすごく良いものだと思う。子どもたちに自分手帳で健康マネジメント能力を向上させる取組に加え、いろいろな角度から、是非、食育の取組を強化していただきたい。

**【成澤委員】**

委員の皆さんが発言されたとおり、食育は家庭の問題とを感じる。

もうすぐ20歳になる私の子どもは、ドレッシングをかけずにサラダを食べる。理由を考えると、小さい頃から子どもに農家の方に頂いた野菜を食べさせていた。それがおいしかったらしく、20年間、ドレッシングをかけていない。幼少期に味わった味がずっと残っているようなので、幼い子どもを持つ御家庭などに伝えることが効果的ではないかと感じている。

一方で、農家の数が減少し耕作放棄地が増えている。我々も食がなければ生きていけないので、専業農家の経営が成り立つようにしていただき、子どもたちにも職業体験などを通じて、将来、農業に携わる方や後継者になる方を教育していかなければいけない。

**【吉津委員】**

幼少期から健康的な生活習慣を形成することは、成人期、高齢期等の生涯を通じた健康づくりにつながる。三つ子の魂百までなので、幼少期に喫煙の身体に対する害悪を学べば何十年スパンで浸透すると思う。大人になってから変えるのは難しいので、幼少期からの教育を大事にしていきたい。

また、正木委員も発言されたように、地産地消や地元食材の貴重さを学ぶ機会もつくっていただきたい。私は南郷トマトを食べて育ったが、当時はそれほどおいしいもの、価値があるものとは思わずに食べていた。いろいろな場所でトマトを食べて比較することで、初めて南郷トマトがおいしいトマトだと気付くことができた。子どもたちに比較して食べてもらうのは難しいが、意外と身近なところに宝物があること、そうした気付きを促せるような取組が資料5の伝統野菜への理解を深めることや、古里の恵みを学ぶことであり、先ほどの資料2の福島に誇りを持つことができる「福島を生きる教育」につながると思う。

好き嫌いについては、大人になってから苦勞する。アレルギー等はやむを得ないが、教育のプロセスの中で好き嫌いをなくす取組があれば良いと思う。

**【知事】**

ありがとう。

教育委員の皆さんの意見、全て同感である。

教育長、教育委員会では、子どもの健康教育をしっかりとやっていただいているので、継続してください。

健康や農業振興、福島の食のPRの問題、これらは正に総合政策であり、知事部局自身の問題なので、皆さんから頂いた意見が我々の後押しにもなり、足りないところを気付かせていただいた。

皆さんの御意見をしっかりと受け止めて、県の政策に反映させていきたい。

< 報告事項 休日の部活動における地域移行の進捗状況と

今後の方向性について >

**【知事】**

それでは報告事項に入る。

「休日の部活動における地域の進捗状況と今後の方向性について」、健康教育課から報告をお願いします。

- － 健康教育課長から資料7について説明 －

**【知事】**

部活動の地域移行は、指導者の確保など、市町村ごとに課題があり、統一的な対応が難しく、きめ細かな対応が必要である。

教育庁と文化スポーツ局がしっかり連携しながら、知恵を出し合い、一つ一つ着実に進めてください。

一時間半、密度の濃い時間を皆さんと過ごすことができた。

特に、大学生・高校生の皆さんのプレゼンは、我々にとって大きな学びとなった。また、いつもながら委員の皆さんには、熱心に御発言いただき、本当にありがとう。

(3) 閉会

事務局（政策調査課長）